

## 2006年生田緑地内ソメイヨシノからのナラタケモドキの再発生

小山 明人\*<sup>1</sup>

Reappearance of *Armillaria tabescens* basidiocarps in 2006 from the same cherry tree roots that yielded the basidiocarps in 2002, 2003, 2004 and 2005 in Ikuta Ryokuchi Park, Kawasaki, Kanagawa, Japan

Akito Koyama

### 緒言

生田緑地において、2002年より連続してナラタケモドキ (*Armillaria tabescens*) が、ソメイヨシノの同一の2本の木の根元から、同じ時期に発生した (佐藤・太田 2003; 佐藤・太田・吉田 2004, 佐藤・小山 2005, 小山 2006)。本菌は樹木を枯死させる病原菌であり、寄主木が何年で枯死するか、また、その後の子実体の発生を記録することは病原菌の性状を把握する上で必要と思われる。本年も、昨年と同じ調査木において、ナラタケモドキ子実体の発生の有無と、桜の木の枯死の有無を記録する目的で調査を行った結果を報告する。なお、本年は緑地内のキノコ全般の発生が悪かった。

### 調査方法

調査日：2006年9月22日から10月5日。

調査木：桜1、桜2 (2003年に枯死, 2005 伐倒)。桜1と2は根元が5m 離れている。佐藤・太田 (2003), 佐藤・太田・吉田 (2004), 佐藤・小山 (2005) 小山 (2006) で調査したものと同一木であり (桜1、2。ただし、桜2についてはナラタケモドキ病により枯死し、2006年1月に伐倒されたため、木の根元部の調査を行った。)

調査項目：子実体の出現の有無と時期、桜1の樹勢調査。

### 結果

9月22日。桜1は、本年も枯死しなかった。大枝4本の内、1本は健全であり近隣の健全なソメイヨシノと目視比較して同程度に葉をつけていた。残りの大枝の状態は昨年と同様である。また、桜1において2002年に枯死し2003年1月に剪定された大枝の下部にチャカイガラタケ (*Deadaleopsis tricolor*) が発生した。桜2は2005年1月、地上部80cm程度を残して伐倒されたが、今回調査後の平成2007年1月に根元から伐倒された。

ナラタケモドキ子実体は9月22日に桜1の根元から発生し、25日には3株に増えた。28日に同箇所でも4株、10月1日には枯れた。同日、桜1と桜2の中間地点で2

箇所発生し、5日に1ヶ所、10月7日にはすべての子実体が枯れた。桜2の周囲には発生がなかった。

### 考察

生田緑地において5年間連続して同じ時期に同じ木 (桜1) からナラタケモドキ子実体が出現した。子実体発生時期を決定している何らかの要因解明のためには、今後も発生動態と桜の枝枯れに注目し病状の変化を記録する必要がある。

### Summary

Basidiocarps of *Armillaria tabescens* were observed on roots of the same cherry tree (*Prunus yedoensis*) in every September of the last three continuous years.

### 謝辞

本稿については森林総合研究所九州支所佐藤大樹博士のご指導をいただきました。感謝いたします。

### 引用文献

- ・小山明人 (2006) 2005年生田緑地内ソメイヨシノからのナラタケモドキの再発生.川崎市青少年科学館紀要 (17) : 27-28.
- ・佐藤大樹・太田祐子 (2003) 生田緑地で観察されたソメイヨシノのナラタケモドキ病.川崎市青少年科学館紀要 (14) : 5-7.
- ・佐藤大樹・太田祐子・吉田三夫 (2004) 生田緑地内ソメイヨシノからのナラタケモドキの再発生.川崎市青少年科学館紀要 (15) : 9-10.
- ・佐藤大樹・小山明人 (2005) 2004年生田緑地内ソメイヨシノからのナラタケモドキの再発生.川崎市青少年科学館紀要 (16) : 11-12.

\*1. 川崎市青少年科学館

